

保育環境「時間的環境」～保育における時間を考える

兵庫県姫路市 認定こども園 八木保育園

1. 八木保育園の紹介

1972年開園 2014年度に新園舎になり、認定こども園になりました。
地元は瀬戸内海に面した、灘のけんか祭りの本場です。

園児数は97名 (2014年度現在)

ひよこ組 0歳児6名 1歳児5名 / うさぎ組 1歳児4名 2歳児16名

ぞう組 3歳児12名 4歳児8名 5歳児11名 / きりん組 3歳児14名 4歳児9名 5歳児11名

0.1歳児クラスと1.2歳児クラスは保育指針に沿って、発達段階に応じてクラスを分けています。

3.4.5歳児クラスは異年齢混合クラスです。

今回の発表クラスはうさぎ組(1.2歳児)を対象にしています。当園の乳児保育における時間的環境の考え方と実践を紹介したいと思います。

2. 八木保育園の保育方法 (コダーイ芸術教育研究所に学び実践)

私達は、子ども一人ひとりを尊重しながら発達を助ける事を保育の場を実現させる為、**育児担当制と流れる日課**という保育方法を実践しています。

* 育児担当制とは

乳児クラスでは1クラス2～3名の保育士が担任します。

年間を通して、一人の子どもには決まった保育士が育児(排泄・食事・睡眠)にかかわることを必ず行うようにします。これが育児担当制です。子どもにとっては、いつも同じ保育士が世話をしてくれる事になります。保育士は、担当児一人ひとりの発達段階や心理状況を把握しやすく、子どもも担当保育士を信頼し、情緒が安定します。保護者との連携も取りやすくなります。

* 流れる日課とは

1,2歳児の担当保育士は5～7名の子どもを担当し、その中で個人日課が似通っている子ども2～3名のグループを作ります。(0歳児はグループを作らず、成長に伴ってグループ化して活動するようになります)

子どもには一人ひとり必ず違った生活リズム、すなわち個人日課があります。起床、朝食、登園、昼食、午睡、降園、夕食、就寝時間などを考慮した、一人ひとりの日課(例えば、起床、朝食が早い子は昼食や午睡時間が早くなるようにします)や大人の動きなどをクラスの日課に組み込んでいきます。

複数担任である乳児保育の中では大人の動きが担任の数だけあり、安全に子どもを見るために、また効率よくクラスを運営するために、担当する保育士が世話をすること(育児担当制)を保障しながら、クラスの中でそれぞれの大人が同じ動線にならぬように役割分担をして動きを決めていきます。このように日課と流れをつくることを「**流れる日課**」と呼んでいます。

日課は、守って生活できなければ意味がないし、クラスの日課を計画し実現可能なものとするために、子どもの状況のみて変更出来る自由もなければなりません。(例えば、春と冬では戸外時間が変わりますし、夏にはプール・水遊びを日課に入れていきます。)

子どもは今自分が何をしているのか、これから何をするのかを知っていて、待たされる事なく自分の番になるまでは遊んでいられる時間があります。それを可能にするための日課であり、その中で子どもの能動性や、自律性が育っていきます。

2. 育児担当制・流れる日課の実践

うさぎぐみ (1.2歳児混合クラス) 1歳児 (高月齢児) 4名 / 2歳児 16名 / 計20名
担任3名 午前補助1名 (9:45~11:10)

☆1日の流れ

順次登園 → 室内遊び → 戸外遊び (60分程度)

登園すると子どもたちは、室内でそれぞれ好きな遊びをします。
子どもが登園してきたらその担当保育士が受け入れます。その時、もう一人の担任は遊びに入るように、状況に合わせてその時々で対応します。

戸外遊びへは担当グループごとに時間差で行きます。
室内に残っているグループは、少人数でゆったりと遊ぶことができます。
1歳児のいるグループが先に戸外に出るので、2歳児のみで室内で高度な遊びに取り組むことも可能です。(朝のおやつもグループごとに食べます)

戸外遊び → 入室 (手洗い、おやつ、排泄) → 室内遊び

入室は担当グループの中でさらに2,3人ずつに分かれ少人数で行います。
入室するメンバー・順番・保育士はいつも同じです。
入室の世話をするのは担当保育士なので、戸外で遊んでいる子どもは担当以外の保育士 (副担当あるいは補助保育士) が見るようにしています。
少人数で入室することによって、子どもの様子・発達を知ることができ、個々に応じた細やかな援助、言葉かけが出来ます。

おむつ交換



オムツ交換は、交換台 (右写真) で行ないます。オムツが取れても排泄室へ行くのは2対1ぐらまでとしています。

担当保育士が排泄を行っている間、他の子どもは自分の排泄の順番が来るまで遊んでいます。室内遊びをしている子どもは副担当保育士と補助保育士が見ています。(当園では布おむつを使っています。)

排泄の時間は1対1の密な関わりが出来るスペシャルタイムです。本当に『子どもも大人もお互いに、一番幸せな時間』です。「足を上げて、次はズボン

を穿くよ」といった機械的な声かけではなく、むしろ何気ない日常会話を通してスキンシップが図れるようにしています。

また、いつも同じ大人が排泄を担当することで個々の尿間隔が把握でき、その子に合ったトイレトレーニングの見通しが出来ます。

同時に実現する 食事・遊び・睡眠

室内遊び → 排泄 (手洗い) → 食事 → 午睡

遊び、排泄、食事、午睡はグループごとに時間差をもって進行するので、同じ瞬間に部屋の中で違った行為が同時進行で行われてゆきます。(右写真) 排泄や食事を援助している保育士と遊びを見る保育士、食事の搬入やコットベットを敷く補助職員とが連携し協働しています。



食事は子どもの機能発達段階や嗜好をよく知っている担当保育士が、食事量、好き嫌い、体調の変化などを考慮し必要な援助をします。

0歳児期の1対1の食事から始まり、1歳児期は2対1、3対1へ、2歳児期は3対1、4対1、からグループ全員での食事へと形態が変化していきます。

同じ時間に、同じ場所で、同じ人と同じ行為をすることが習慣化の助けとなります。
入園当初は先に食事に行っているグループが気に入り、テーブルの周りをウロウロしている姿も見られますが、毎日のくり返しで“この友達が終わると私”と認識していき、自分の時まで安心して遊んで過ごせるようになります。

午睡は食事が終わるとカゴを持って自分のコットベットの傍らへ行き、服・靴下を脱ぎ、たたんでカゴに入れてベッドの下に片付けます。担当保育士と“おやすみ”をして布団に入り、自分のタイミグで入眠します。

この一連の流れは毎日繰り返すことによって0歳児でも身に付き、大人に言われなくても子ども自らが行うようになっていきます。大人が寝かしつけをすることはほとんどありません。食事の番が来るまで遊んでいる子が周りにいても、安心して入眠できます。

子ども一人ひとり（遊んでいる子・食事中の子・午睡している子）が、満たされていることでごく自然に他者の時間も受け入れ生活しています。

起床（3:00） → 着替え → 排泄 → おやつ → 遊び → 順次降園

流れる日課を実践して

当園には、不必要に子どもを待たせる時間はありません。自分の番になるまでは遊んでいられる時間をつくる。それは待ち時間を遊んで過ごすということではなく、遊びは学びの時間と捉えています。子どもは遊びの中で、運動機能を発達させ認識過程を先に進めます。

どの子どもにも十分なあそびの時間（量的）、丁寧な育児の時間と途切れのない時間（質的）、を保障するためには、クラスを受け持つ担任同士が知恵を出し合い、お互い協力し合うことが不可欠だと思います。

様々なことを考え合わせて日課を組んでいくのは慣れないうちは特に難しいことですが、実際組みあがった流れる日課の中で保育していると時間に追われるという感覚があまりなく、それぞれの時間帯の中で一人ひとりの子どもとしっかりと向き合えるので、個々の育ちや課題が見えて来やすいように思います。

流れる日課がよく機能した時、次のような成果が期待できます

- ・子ども一人ひとりを尊重することを可能にする。
- ・子どもが日課に参加するようになり、クラスに民主的な雰囲気形成される。
- ・遊びの中で子どもをよく見て、助ける事が出来る。

「乳児保育の実際～子どもの人格と向き合って」 コダーイ芸術教育研究所/著 明治図書より